

■セーラー喫茶ムサシ、セクハラ客を個室で説教→返り討ちレイプに墮つ

——ここはセーラー服を模したコスチュームの店員が客をもてなすセーラーメイド喫茶。
ヤエ、ユイ、ムサシの三人は、今はこの店で働いていた。

「お待たせしました〜♪」

ヤエが注文された飲み物を置く。

そして振り返った時……ヤエの尻に何か当たる。

客がヤエの尻を触ったのだ。

典型的なセクハラ。普通は無視と言う名の泣き寝入りか、注意をするのだが……

「……すみません、ちょっと来てもらえますか」

【え？ 何のことで……】

「とぼけないでくださいね〜」

この店は、ただの注意では済まなかった。

個室に呼び出し、逆らえない空気にした後に恐喝まがいの説教を行う。

そうでなければ店員や店を守れないからだ。

【あ、あの……】

「では、ゆっつくりと、お話ししましょうか」

——……

—————

ばんばんばんばんばんばんっ♥♥

「あ♥ あはっ♥ だ♥ ダメええっ♥」

【個室に呼んだってことはこういうことするつもりだったんだよね？ 期待したんだけど……なあんだ、全然大したことないね】

二人きりの個室で説教をするはずだったヤエ。

……だが であろうことか、逆に密室レイプされる事態となっていた。

バックで犯され、セーラーメイド姿を堪能されてしまう。

(何で淫気なの♥♥ こんなに気持ち良いなんて……っ♥♥)

妖怪たちが起こした事件により、淫気を持つ者は劇的に増えた。この客もその一人だったのだ。

更に淫気の相性が悪く あっさりとしてセクハラを超えた辱めをされていた。

【遠慮なく中出しさせてもらっねっ！】

「だ……♥♥ だめええええ……♥♥」

ゴブ♥♥ ドブツ♥♥ ビュビュウウウウウウウツ♥♥

「あああああああああああああああつ♥♥♥」

【ふう……気持ち良かったよ。またヤラれたかったら……あれ？】

満足した客。しかし、その背後には女剣士・ムサシが立っていた。

【あ、あの、これは……】

「……念仏は済んだか？ この下衆がっ！」

……こうしてムサシの鉄拳制裁により、セクハラ客は捕まったのだった……

◆ ——後日

「おまたせ〜♪」

陽気なユイが、機嫌よく飲み物を置く。

しかし振り返った時、小ぶりの尻を揉まれる。客がユイの尻を触ったのだ。

「ふう〜ん？ いい度胸してるじゃない」

【な、何のことで……】

「はいはい、そういうのいいから。ユイ様には全部わかってるんだからね〜♪」

この店恒例、セクハラ客への個室説教。ヤエがレイプにより受精絶頂させられた事件以降、このルールは更に厳しくなっていた。

またユイの性格上、この行為は非常に彼女好みでもあった。ユイは嬉々として個室へと連れ込む。

【あ、あの……】

「じゃ、みっつちり搾ってあげるわね♪ お・きゃ・く・さ・ま……♥」

——……

ぱんぱんぱんぱんぱんぱんっ♥♥

「ふひっ♥ イク♥ またっ♥ またイクううっ♥」

二人きりの個室で説教をするはずだったユイ。

……だが あろうことか、逆に密室レイプされる事態となっていた。

騎乗位で犯され、文字通り搾り取ることになっていた。

（こいつっ♥♥ まさかヤエさんを孕ませたヤツなんじゃ……♥♥）

気付いてももう遅い。ヤエと同じく、ユイはあっさりとイカされまくり、受精確実の種漬けを食らうのだった……

【この店チョロいなあ♪ はい二人目ゲットっ♪】

「やめなさいっ♥♥ こんなことしてっ、タダじゃおかな……♥♥」

ゴブ♥♥ ドブっ♥♥ ビュク♥♥ ドビュルルルルルルルルルルルッ♥♥

「イクうううううううううううううううううっ♥♥♥♥」

【ふう……また孕ませちゃったかな。さー早く逃げないとね、またあの剣士が来ない内に……あ】

満足したセクハラ客。そしてすぐ逃走を図るが……既にムサシが背後にいた。

【あ、えーと……その……】

「……仕置きが足りなかったようだな。……二度と来るなっ！」

……こうしてまたもムサシにより、セクハラ客は捕まったのだった……

◆ ——後日

「……待たせたな」

ざゆむっ♥

「っ！ ……懲りずにまた来たのか」

体験版はここまでです。続きは製品版で！